

現代の古典を読んで長文の読解力をつけよう



東京学芸大学名誉教授 倉持 三郎

1. 英語学習においては長文の読解が重要

英語の学習で読むことが重要であることを疑うものはいない。しかし、長文を読むことが苦手であるという生徒が多いことも事実である。

現行の指導要領では「リーディング」という教科書があり、それによって主として長文読解の学習が行われている。さらに、生徒の必要度に応じてサイドリーダーを読ませるということも行われている。新しい指導要領では「リーディング」は独立した科目としては消え、「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」に含まれることになる。「リーディング」という科目が消えたことによって、長文の読解力をつけるにはどうしたらよいかと悩んでいる先生方も多いであろう。

「聞くこと」「話すこと」そして「書くこと」はもちろん必要であるが、それを支えているのが読む力である。「読むこと」はかなり高度で総合的な精神活動であり、一朝一夕でその力がつくものではない。したがって、高校生のときに生徒のニーズに応じてその訓練をする必要がある。

UNICORN CLASSICS *Dynamic English Reading* は、長文の英文を読む力をつけるために作られたものである。検定外教科書であるが、正規の授業でも、また生徒の自宅学習でも使えるように工夫されている。

2. 題材は現代の古典

長文読解の力をつけるためには種々の本をたくさん読むに越したことはないが、高校生の時間は無限ではない。その点を考慮して題材を精選したのが本書である。ここに採録されている題材は、かつて主として UNICORN IIB というリーディングの教科書に採録されていたものである。

「愛とヒューマニズム」を標榜する題材を集めた UNICORN は当時暖かく迎えられ、発行部数も多かった。民主主義と平和を願い、愛と平等を説く題材

は、多くの方の共感をよんだ。このような題材は現在ではもう不要になったのであろうか。いや、そういうことはない。それらの題材は時代を越えて読みつがなければならない。それらは「現代の古典」だからである。

これらの題材を現在の高校生にも是非読んでもらいたいという願いをこめて、あらためて本書に採録した。21世紀初頭に生きる高校生たちは当然、現在を知り、未来への展望を持ってほしいが、そのためには21世紀の序章ともいえる20世紀のことを知ってもらいたい。「各巻の内容」は別頁に掲載されているが、ここではそれに少しつけ加える。

現在の生徒たちは、アメリカのオバマ大統領について何の疑いも抱かないのかもしれない。多民族国家だから、白人でない大統領が当選したからといって不思議に思わないかもしれない。しかし、アメリカには長い間黒人差別の歴史があったことを知り、差別を廃止するためにキング牧師が尽力したこと、そして最後には凶弾に倒れたことを知ってほしい。そして差別に対する抗議運動が非暴力の手段によって行われたことも知ってほしい (BOOK 1, LESSON 7)。これを知ることによって、高校生は今後の社会改革の進むべき方向を知ることになるだろう。

キング牧師の有名な“I Have a Dream”の演説とそのCDもついている。それを読み聞けば、その熱意もさることながら、人びとの心を動かすのには何をどのような言葉づかいで語るべきかということも学ぶであろう。アメリカだけの話ではないが、指導者たちにとって、人心を動かす演説がいかに大事なものであるかも知ることになるだろう。

20世紀には二つの世界大戦があり、日本も^{さんたん}惨憺たる被害をうけた。ヨーロッパでは独裁者ヒトラーが隣国に侵入し、またユダヤ人撲滅をはかった。そのため彼らの多くは隠れ、また国外に脱出した (BOOK 1, LESSON 5, LESSON 6)。独裁政治がいかに悲惨な結果をもたらすかを知ること、高校

生たちは民主主義を守らなければならないことを痛感するだろう。

科学の方面では、20世紀初頭にキュリー夫人のラジウムの発見があった。彼女は科学の研究によって金もうけをすることを拒否し、その製造の特許をとらなかった(BOOK 2, LESSON 2)。この話は、金銭と結びつくことで科学の研究があらぬ方向に曲がってしまうことへの警告と読んでほしい。

また、ギリシャ神話の春の女神の話がある(BOOK 1, LESSON 1)。ギリシャ神話は英米人の文化の背景である。それを知ることで、英文の読みが深くなる。ヨーロッパ文化の背後には、ギリシャ神話と同時にキリスト教文化がある。カトリックの修道女マザー・テレサの献身的生涯が描かれ、また日本での講演が収録されている(BOOK 2, LESSON 1 付録)。自分のためではなくて、他人のために生きるマザー・テレサの姿勢を知れば、高校生の精神世界は広がる。

3. 読むことによって読み方を覚える

読む力をつけるためには、まず読まなければならない。読むということは文型・文法などの言語上の知識のほかに、作者の思想、文化的知識、歴史的背景の理解を含んだ総合的精神活動である。自分の持っている知識を総動員して、まず読まなければならない。

生徒が自宅で学習することを想定して、長めで懇切丁寧なイントロダクションをつけた。これは本文の英文と比較するとやさしい英文である。まず、これを読むことによって本文についての予備知識を持つことができる。本文は長い原典の一部を抜粋したものが多く、その原典全体の内容、そしてその作者の説明もしている。

本文では、まず最初の文を注意して読んでほしい。そこで本文の内容を予想する。そのようにして第2文、第3文と続ける。そして最初のパラグラフの内容を理解する。最初のパラグラフの内容がわかれば、本文全体の内容も見当がつき、次のパラグラフはより容易に理解されるだろう。長文が苦手という生徒がいるが、長文は短文の集合である。短文をその順序に従って理解していけば、長文といえども恐れることはない。あとは根気の問題である。

多くの生徒たちは、本書に採録されている題材

に対してむずかしいという印象を持つだろう。しかし、実際にむずかしい英文がある以上、それを読みこなす練習をしなければならない。ここで苦しめば、それだけむずかしい英文を理解する力がつき、自信がつく。やさしい英文を読むだけでは、むずかしい英文を読む力はつかない。

4. きめこまかな内容のチェック—WORKBOOKの併用

本書はサイドリーダー的に、あるいは自宅学習用として利用されることも多いだろう。その場合の効果的・効率的な運用を考えて、本文の内容把握問題(サマリーチェック)、文法・語法の演習問題(EXERCISES)は、提出用のWORKBOOKに収録した。授業による直接指導が望ましいが、時間的制約の上で無理な場合は自宅学習あるいは長期休暇の宿題として課し、WORKBOOKを提出させて生徒の学習実態を知ることができる。また、教師のご判断によって本文訳やEXERCISES解答を生徒に示すときのために、「WORKBOOK別冊 本文日本語訳、EXERCISES解答例集」を用意した。

5. 文型・文法事項の定着

もちろん、読むといっても文型・文法の知識が十分でないと正確に内容を把握することはできない。そのために基本的な事項をWORKBOOKのなかで各課ごとにFor Studyとしてとりあげ、その定着を図るために前述のとおり練習問題(EXERCISES)をつけている。本文に出てくる文型・文法はこのようにしておさえている。

6. さらに広い読書の世界へ

以上に述べたように、本書に根気よくじっくり取り組みれば長文の読解力はつく。本書に採録した題材は長い原典の一部のことが多い。これは教科書の性格上やむを得ない。本書を読んでその題材に関心を持ったなら、その原典も読んでもらいたい。たとえばPersephoneの話に関心を持ったなら、ギリシャ・ローマ神話を読んでほしい。もちろんそれは、原文でもよいし翻訳でもよい。このようにして本書を出発点として、さらに広い読書の世界への旅をしてほしい。